

日曜日の初心者クラスでコーチをしています、田中です。

6月8日と9日に行った第10回詰将棋大会、いかがでしたか？

第6回から今回まで、問題は全て私の方で作っています。

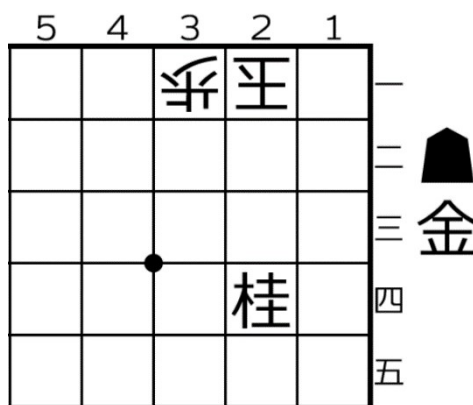
全員の回答を見させていただきましたので、作成者としてコメントしようと思います。

<まず>

棋譜の書き方についてです。今回初めて受けた子も多かったと思いますが、まちがって覚えてしまっている子が何人かいましたので、改めてお伝えします。

右の土曜日 第4番 ですが、答えは「1二金」です。「1二金打」と書いている子が何人かいましたが、この場合「1二金」といえば、持駒の金を使うしかないのです、「打」はつけません。

他の問題も同様で、「打」をつけないのに「打」がついていた場合は、バツです。答えが分かっているのに、「打」をつけたために全部バツになってしまいますので、これはしっかり覚えてください。



土曜日 第4番

次に、日曜日 第49番 です。

答えは、「1三桂不成」です。「不成」(ならず)をつけ忘れると、バツです。また、「ならず」と読みますので、「ふなり」と書いてもバツです。「不成」のつけ忘れが大変多かったです。



日曜日 第49番

棋譜の書き方について、教室でもお話ししており、動画も上げております。

また、将棋連盟のホームページに詳しく書いてあるので、自分でよく分かっていないと思ったら、何度も読んでおきましょう。

<https://www.shogi.or.jp/faq/kihuhyouki.html>

<一手詰>

初心者クラスの間違いが多かった問題を、土日それぞれ解説します。

まずは土曜日の第31番。

答えは、「3四飛成」です。

「3四馬」という回答が多かったのですが、それは1四玉と歩を取られて逃げられてしまいます。問題を見たら、まず玉がどこに逃げられる状態なのかをよく確認しましょう。この問題ですと1四に逃げられる状態ですので、そこに逃がさないように王手をします。よって、「3四飛成」が正解です。



土曜日 第31番

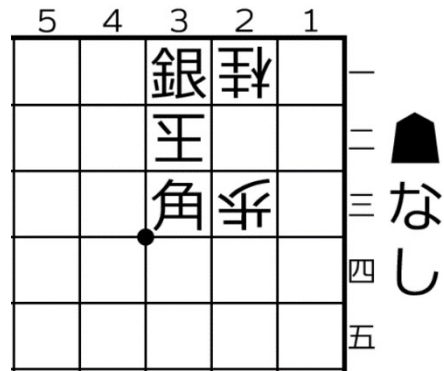
次は、日曜日 第22番です。

上級クラスでも間違いがややあったのですが、

答えは「4二角成」です。

「4二銀成」という回答が多かったのですが、それには「3三玉」と角をとられて詰みません。

こちらも土曜日 第31番と同じで、玉がどこに逃げられる状態なのかを、最初によく確認することが大切です。



日曜日 第22番

そんな中、土曜日で3人、日曜日で1人の計4人が62点の満点を取りました。棋譜の書き方も含めて、ちゃんと準備してくれているなと感じています。

<三手詰>

12問ありましたが、今まで通り土日どちらも、63番から68番がやさしめ、69番から74番がむずかしめ、にしています。今回は、土日どちらも、満点を取った生徒はいませんでした。三手詰といえども、難しい問題もありましたので、満点を取るのは大変かなと思います。一方で、「三手の読み」というように、「三手詰」が詰将棋の基本ですので、特に8級～1級くらいまでの方は、普段から三手詰をたくさん解くようにすると良いと思います。

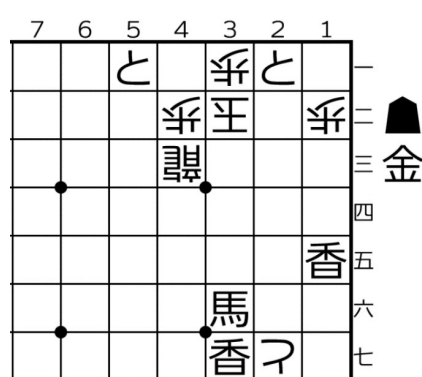
土曜日からは、第69番を解説します。初手は角打ち  
 ということはすぐに分かるかと思いますが、どこに打  
 つかが問題です。1一、1三、3三と3か所ありますが  
 が、もちろん答えは一つだけで、「3三角、同玉、3二  
 金」(または、同金、1二金)が正解です。1一角です  
 と同飛で、1三角は同金で、それぞれ詰みません。3  
 か所しっかり読まないといけないので、あせって答え  
 て間違えてしまった人が多かったようです。正解した  
 生徒は、9人でした。



土曜日 第69番

日曜日は、第67番、第72番、第74番が難しかった  
 と思います。第67番と第74番は表彰式で解説しま  
 したので、ここでは第72番を取り上げます。

馬が動けば開き王手ですし、2二金という手も見えま  
 すが、初手は2三金が正解です。同玉なら1四馬で、香  
 車のききが通って詰み、同龍なら5四馬とこちらに出  
 る手が両王手で詰み、2一玉なら1二香成(持駒があま  
 るので、この2一玉は不正解)です。初手5四馬は3七  
 とと香車を取られますし、初手2二金は3三玉が  
 詰みそうで詰みません。正解者は5人でした。

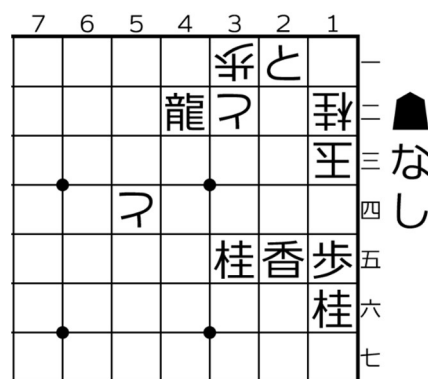


日曜日 第72番

<五手詰、七手詰>

今回私が一番驚いたのは、土曜日で七手詰を全問正解  
 する人がいたことです。特に最後の92番は、時間も  
 残ってないだろうから誰も正解できないだろうと思っ  
 ていました。それが右の問題です。

初手は4三龍とします。同とは、2三香成で三手で詰  
 み、2三に合駒も、同香成から五手で駒余りです。よっ  
 て、3三に合駒をすることになりますが、香車、銀、金、  
 飛車は、同龍から取った駒を1四に打てば五手で詰み、  
 角も、同龍から2二角で五手詰み、歩は二歩のため



土曜日 92番

打てない、よって桂馬が唯一の正解で、同龍、同とに、  
 2三香成、同とと香車を捨てると、もらった桂馬を2五に打てて七手で詰みとなります。こ  
 のように、玉方の合駒を一通り考える必要があるため、どうしても時間がかかる問題でした。  
 この問題も含め、七手詰を全て正解したのは見事としか言いようがないです。

<最後に>

今回の詰将棋大会は、第10回ということで記念の(?)大会でした。このような大会に問題を提供することができて、うれしく思います。またみなさんが真剣に取り組んでくれる姿を見て、私自身も次の大会に向けてもっと良い問題を作れるよう、がんばろうと思いました。

(でも、難易度はなるべく同じにするつもりです)

それではまた、半年後を楽しみにしております。